

『物価高に対応して、入院食事療養費をグーンと上げて欲しい！おいしい食事を提供したい！』

5月もあっという間に過ぎました。ゴールデンウィークは、4日と5日が工事のために大学構内へ入れなかったの、久しぶりに家で過ごしました。旅行？人出の多い所へは行きたくなかったので、日帰り温泉へ行きました。5月5日は「丹波焼の里、春ものがたり」という陶器市を吉川先生に教えていただき、行きました。結構な人出で、駐車場から会場までが遠かったのですが、いい天気だったのでいい散歩をさせていただきました。ゴールデンウィークはそれだけです。あとは大学で仕事していました。

大学の講義が9日から始まり、その後はスケジュール通りでした。

学術活動としては、13日に和歌山県立医科大学の特定行為研修で講義をしました。「胃ろう造設に関する患者のQOLと意志決定について」で、ウェブ講演。もう、この講演、何回目かは忘れたのですが、なんとなく、知らない人達に2時間講演するのがしんどくなって、今回で終わりとさせていただきます。正直なところ、対面での講演なら、もっと続けても良かったのですが、主催者にも会ったこともなかったので、気持ちとしてしんどくなったのです。

17日は大阪大学旧第一外科の同門会、汲泉会。なつかしい同門の方々に会う会、です。小児外科同門会、消化器外科同門会、外科同門会と4つ、あるのです。いろいろ、都合が合わないことが多いのですが、汲泉会は、なんとかして都合をつけて参加することになっています。川島先生、松田先生、澤先生と、3代教授が来られます。第一外科の赤ネクタイで、年1回、川島先生と記念写真を撮る、恒例の、これが大事なんです。今回も、上池先生、根津先生、弓場先生と4人で最後まで残り、懇親会の料理を腹いっぱい食べてしまいました。川島先生は94歳、脚が弱ったと言っておられましたが、ご健在です。松田先生は大病を克服され、お元気です。澤先生は、非常に有名になられてのご活躍。ちょっと太り過ぎかな？と心配しています。2027年の医学会総会の会長なので準備で大変だとのこと。外科医として初めての会長だそうです。

24日は、大塚製薬工場と共催のPENの会。研修医のためのPEN入門セミナーでした。今回は45人の研修医が参加しました。講義の後、6班に分かれて、症例検討、CVポート、PICC、PEG、半固形経腸栄養剤投与のハンズオンで勉強してもらいました。こういうセミナーは、参加率が低い傾向があるのですが、今回は50人の申し込みに対して参加者は45人、参加率は9割。まあまあ、でしょう？結構、レベルの高いハンズオンで実践できたのではないかと思います。私は、顧問としての参加なので、気楽に、遊ばせてもらいました。研修医にとって、非常にいい勉強の機会だったと思います。大学で臨床栄養について勉強していますか？という内容のアンケートをとりました。結果は、リーダーズの機関誌に論文として掲載させていただきます。



↑ 今回も写真が少ないので、千里金蘭大学の私の部屋からの景色を出させていただきます。パノラマ写真です。すばらしい眺望でしょう？左のほうに太陽の塔、エキスポシティの観覧車も見えます。



↑ これも私の部屋からの写真です。守衛さんがずっと立っておられます。何人かなあ。私、守衛さん達と仲良しなんです。



↑ 旧大阪大学第一外科の同門会、汲泉会です。年1回の集まりです。目的の一つは川島先生と赤ネクタイと一緒に写真を撮ること。今回は、川島先生は第一外科の赤ネクタイではなかったんですが、まあ、赤だから許しましょう。川島先生は94歳、左上の写真の右端は、元徳島大学教授の門田先生。86歳。岡田正先生の同級生です。松田先生は完全復活で、相変わらず辛辣な意見を述べておられました。お元気になられてよかった、私は本当にそう思っています。右下の写真は、若手組。私達、昭和56年卒業の高齢組の写真撮影を終えて、若手組の写真撮影の準備をしている時に私が撮影しました。

翌 25 日は千里金蘭大学のオープンキャンパス。今回も大学としては非常に力が入っていたと思います。私？当番ではないのに参加しました。結構、重要な役割を果たしていると思っているのですけど。森永乳業 クリニコに提供していただいたクリミールの試飲、エンジョイゼリーの試食を、参加してくれた生徒さんにご父兄にさせていただくのです。おいしくないというイメージを払拭するのも大事なことです。今回は、動画で大学の紹介をすることになって、阿形先生がすばらしい動画を作ってくれ、55 インチの大画面モニターでずっと流したのですが、残念、じっくり見てもらえなかったのです。その動画を見ている間にコーヒーサービスをしようと準備したのですが、全く、でした。残念でした。でも、私は、栄養学部の教授なのですが、看護学部を希望している生徒さんに大学の宣伝・説明をさせていただき、オープンキャンパス後の感想で「井上先生に丁寧に説明してもらってうれしかった」との記載がありました。まあ、それなりに役に立ったのでしょう。しかし、栄養学部を希望している生徒さんとは、ほとんど話ができませんでした。今回は、大量調理の模擬授業が別の建物であったので、私達が待機していた会場にはあまり来る機会がなかったようです。次回のオープンキャンパスはどうなるのでしょうか。

ここんとこずっと米、米、米。小泉さんが農林水産大臣になってから、備蓄米、古米、古古米、古古古米、などの話題でもちきりです。国民民主党の玉木氏の動物のエサ発言、前江藤農水大臣の失言、米で盛り上がっています。とにかく、小泉さんが農水大臣になって世の中が動き出したので、それは評価すべきだと思っています。備蓄米という用語も知ってしまいました。古古古米、何年も玄米で保存しておいたらどうなるのか？味？匂い？いろいろ知っておかないといけなことがあることを知りました。また、世界情勢は相変わらずで、これからどうなるのだろうとは思いますが。トランプ関税って、何なんでしょう。ああいう人材が力を持つ、これって、おかしいと思います。プーチン氏、イスラエル、ガザ地区、中国、北朝鮮、理解不能。核戦争が起こればどうなるか、本当に怖いことが起こります。とにかく、飢餓による栄養失調で死ぬ人がいなくなって欲しいと思っています。

いいニュースは、大相撲ですか。大の里が横綱になりました。スピード出世と言われているんですが、豊昇龍と同様、早すぎると言われたいようにして欲しいと願っています。久しぶりの日本人横綱です。うれしいことですが、地道、これが大事だと私は思っています。

5 月 31 日、小浜へ釣りに行くことになっていました。しかし、悪天候のために中止。がっかり。昨年の秋も悪天候のために中止になったのです。私の普段の行いが悪いのでしょうか。2 回も続けて釣りが中止になるって、どうい

うこと？昨年の春の釣りは 1 匹も釣れず。昨年の秋と今年の春は悪天候のために中止。本当に残念です。気合が抜けてしまいました。相当、今回の釣りを楽しみにしていたんです。だから、今回のこの記事は、面白くないかもしれません。ごめんなさい。



↑ 5 月 3 日、丹波焼の里、春ものがたり、陶器市に行きました。いい天気でした。人出が多かった。よく歩きました。こんな催しもあるんだなあ、と思いました。何も買いませんでしたけど。



↑ 大塚製薬工場との共催の、研修医に静脈栄養・経腸栄養を指導する「PEN の会」です。毎年、開催されていて、もう、23 回です。もともとは西口先生が代表世話人で、私は何回目かに参加するようになったのです。途中からハンズオンセミナーを取り入れています。今回は、ニプロの PICC、メディコンの CV ポート（内頸静脈穿刺）、オリンパスの胃瘻の実践セミナーでした。大塚製薬工場の半固形製剤の投与方法のハンズオンセミナーもありました。この写真は、「栄養管理の基礎、栄養評価」の講義です。「経口栄養と経腸栄養」「静脈栄養と処方設計」の 3 つの講義がありました。研修医達、熱心に聞いていました。



↑ ニプロのハンズオンセミナー。IP エコーを用いた PICC 挿入方法の実践です。シミュレーター 4 台、IP エコー 6 台、ニプロ PICC-f は必要なだけ、という贅沢なハンズオンです。かなり真剣に実践していました。私も自ら、かなり熱心に教えました。病院に戻って、IP エコーを買ってくださいと病院長に言いなさい、と指導したのですが、どうかなあ。ニプロの社員の上腕で、実際の静脈・動脈を見て楽しんでおられましたよ、研修医達。

ゼン先生：5月も、あまり面白いことはありませんでした。地元の兵庫県と大学のある大阪府以外には出かけていませんから。

小越先生：そうか。4月、5月の2か月、おとなしく地元で過ごしていたんだな。

ゼン先生：そうです。ゴールデンウィークもほとんど大学の部屋で過ごしていました。いろいろ、個人としてやるべきことがありますから。8月のMedical Nutritionistセミナーの準備もありますし、10月の第18回リーダーズ学術集会の準備も、です。

小越先生：なるほど、その仕事もものすごく大事なな。

ゼン先生：それに、機関誌への論文投稿もありまして、これにも対応しなければなりません。

小越先生：いくつか、論文投稿もあるんだな。

ゼン先生：そうなんです。うれしいことです。私自身も投稿論文を執筆しなければならないので。

小越先生：そういう意味でもがんばっているんだな。大学のスタッフとしての仕事だと言って、オープンキャンパスではがんばったんじゃないか？

ゼン先生：私なりにはがんばっているつもりなんですけどね。大学としては、金蘭会の理事長が代わり、やり手の副理事長が来られてがんばっておられます。5月のオープンキャンパスも相当力が入っていました。

小越先生：へええ、経営陣が変わったのか。

ゼン先生：そうですね。大学経営のリニューアルです。大学の母体の金蘭会は、今年、創立120周年なので、ものすごく力が入っているようです。

小越先生：そうか。とにかく、学生集めが大変なんだろう？全国的に、それは問題になっているんだろう？

ゼン先生：そうです。特に、女子大は大変だそうです。閉校になった大学もありますし、男女共学になった大学もあります。

小越先生：香川綾さんが創立した、女子栄養大学が共学になって聞いたが。

ゼン先生：そうらしいです。2026年度から共学化するそうですが、名称はどうするのでしょうかねえ。

小越先生：本当だな。女子という名前はとするんだろう。

ゼン先生：京都ノートルダム女子大学は2026年から学生募集を停止するそうです。

小越先生：京都女子大学、同志社女子大学と並んで、女子大御三家として有名な大学なのに。

ゼン先生：そうですね。本当に大変です。世界情勢もいい方向に向かっているとは思えませんし。

小越先生：そうだな。そうそう、米は大問題になっているな。

ゼン先生：令和の米騒動です。でも、小泉氏が農林水産大臣になってから、なんか、いい方向に向かうのではないかという、期待感が出てきました。

小越先生：目立つと、脚を引っ張るやつが出てくるだろうな。

ゼン先生：それは仕方ないことですけど。応援している人もい



↑ 経腸栄養剤、インノラスの試飲。5種類の味を試飲。インノラスは1.6kcal/mLのエネルギー密度なので、濃い！私も全種類を試飲しました。味はいいのです。しかし、飲んだ後、口の中にインノラスが残るんです。それに、これは10mL程度。100mLを飲める？何日も続けて飲める？そこが問題です。難しい。「飲む点滴」と説明しても、たくさんは飲んでくれないんじゃないでしょうか。やっぱり、もう少し、薄味のほうがいいと思います。でも、そうすると必要エネルギーを飲むためには、たくさん、飲まなくてはなりません。



↑ インノラス平圓形が新発売されたので、これを注入する方法の指導です。大塚製薬工場の営業の方々、本当に熱心に説明していました。加圧バッグを用いる方法を最優先に説明していましたが、用手的注入も可能です。加圧バッグは壊れますし、値段もそこそこ。いろいろ、大変です。お金をかけないようにするには、手間がかかります。



↑ 経鼻カテーテルを確実に胃内に挿入するための医療器具、タムガイドです。この4月から販売に力を入れているとのこと。売れんだろう、と私は言っているんですけど。本体が40万円、カテーテル（ガイド）が2500円かな。カテーテルは使い捨て。この赤い光は15分で使えなくなるんです。いい器械だとは思いますが、高すぎる？売れるかどうか、わかりません。お金に余裕のある施設は購入してあげてください、というしかありません。気道内に経鼻カテーテルを挿入するという医療事故が起これば、賠償金は数千万円以上ですからね。その予防には、高くない？

ますから。

小越先生：そういうことだ。ところで、講義はがんばっているんだろう？

ゼン先生：はい。私なりに、ですけど。

小越先生：何か、いいネタはないのか？

ゼン先生：いいネタではないんですが。臨床栄養学の講義ではずっと栄養アセスメントの話をしていました。栄養障害についての説明の時に「ガザ地区の子供達の食料供給が問題で、栄養障害で亡くなる子供達がいる」と言って、新聞に掲載されていた栄養障害の子供の写真を見せたんですが、ガザ地区について知らない学生が多いようなんです。

小越先生：へええ、ガザ地区を知らない？

ゼン先生：反応してくれていないだけかもしれないんですが、世の中の若者の多くは、テレビを見ないそうなので、こういう情報は入っていないんじゃないでしょうか。

小越先生：ネットニュースや Youtube での情報だけだと聞いているが。

ゼン先生：だから、自分が知りたい情報だけを得るようになりますよね。だから、知りたくない情報は入ってこない。だから、戦争によって起こっている、ガザ地区における食料問題という大事な情報が入ってこないんでしょう。

小越先生：なんか、寂しい話だ、困ったことだ。

ゼン先生：そう思います。講義中に、スマホで「ガザ地区」を検索してみなさい、と言って、検索してもらいました。

小越先生：講義中に、実際に検索させたのか。

ゼン先生：はい。そうです。そして、帰りの電車の中で、こういう苦しんでいる人がいることも、スマホの情報をきちんと読んで、ちょっとは知っておいて欲しい、と言いました。

小越先生：それはいいことをしたな。オレもそう思う。栄養士なんだから、飢餓で苦しんでいる人達のこと知っておいて欲しいよ。

ゼン先生：そう思っています。

小越先生：大事なことだと思うよ。ところで、今回のネタはどうするんだ？

ゼン先生：いろいろ悩みながら、先生と話しているんですけど。今もネタを考えているんです。そうそう、東宝塚さとう病院では週1回、栄養回診をさせてもらっています。もう10年以上になるので、看護師さん達の栄養に対する意識も高くて、知識レベルも上がっていると感じています。

小越先生：それはすばらしい。

ゼン先生：経鼻胃管の話なんです。

小越先生：NG チューブだな。

ゼン先生：そうです。NG チューブはしんどい、という話の例えで、「鼻くそが溜まっているだけで気になるやろう？」という、リハの田原くんが、「鼻くそ」って、別の言い方はないんですか？と言うんです。いい表現じゃない、と言うんです。



↑ 胃造設技術、PEGの実践説明です。実際に胃カメラ（EGD）を使っている実践です。シミュレーターを使って、実際の器具を使って、モニター画面を見ながらの説明ですので、研修医達は理解したと思います。全体を見まわして思ったのですが、ほとんど、全く初めてだという感じの研修医が多いと感じたのですが、アンケート調査の結果でも、臨床栄養学やその実践について教えてもらったという研修医が非常に少ないと感じました。学生時代に、もっと、こういうことを教えておくべきではないでしょうか。



↑ 症例検討の様子です。東宝塚さとう病院の吉川先生の症例検討の雰囲気の写真が撮らせていただきました。吉川先生は教えるのが非常に上手ですから、研修医達、いい勉強になったと思います。真ん中の写真は何をしています？CVポートの挿入留置術のハンズオンセミナーで、内臓静脈による挿入方法のシミュレーションでした。右端はこのPEN入門セミナーの代表世話人、和泉市立総合医療センターの玉森登先生です。気合が入った指導をしていました。



↑ 大学にはりっぱな噴水がありますが、現在は、噴水は出ていません。なぜか？知りませんが、この噴水は、元阪神タイガースの有名な選手が寄付してくれたのだと聞きました。噴水が出ている写真をネットで調べて、見つけました。どこかの偉い方々が訪問した時の記念写真だそうです。もちろん、どなたかわからないので、写真としてぼかしています。この「ぼかし」技術、マスターしました。

小越先生：ハハハ、確かに。きれいな用語じゃないな。

ゼン先生：耳糞は耳垢という医学用語があります。

小越先生：耳垢、じこう、だな。鼻糞は「鼻垢、びこう」と呼べばいいんじゃないか？

ゼン先生：いくら調べても鼻垢という用語は出てきません。そもそも、耳糞と鼻糞は成分が違いますから。

小越先生：そうだな、確かに。

ゼン先生：英語でどうかな、と調べると、Booger（ブッカー）だ

そうです。

小越先生：あれ？知らなかったのか？

ゼン先生：はい。すみません。

小越先生：水分の多いのは snot、それが乾いたものだったら dried snot と言うんだ。

ゼン先生：鼻水は nasal discharge や runny nose というのは知っていましたが、鼻糞が booger というのは知りませんでした。やっぱり先生はすごいですね。

小越先生：定年退職してからも、若い女性たちが通う ECC で英会話を忘れないように努力していたからな。

ゼン先生：へええ。歳をとってからも若い女性と話がしたいんですね。

小越先生：当然だよ。若さを保つ秘訣だ。君は女子大だから、若い女性達と楽しく過ごしているんだろう？

ゼン先生：ハア、どう答えていいのか、わかりませんが。

小越先生：相変わらず、素直じゃないな。

ゼン先生：すみません。とにかく、私、学生達は何を考えているのか、全く理解できないので、こういう返事しかできないんです。

小越先生：そうか。とにかく、君は、もっと若い人達の考え方を受け入れる努力をしないとイケない、オレはずっとそう思っているよ。

ゼン先生：すみません、適応能力が低いので。

小越先生：わかったけど。しかし、その、鼻糞の呼び方というか、別名はどうするんだ？

ゼン先生：どうしたらいいんでしょうか。鼻ブッガーとでも呼びましょうか。

小越先生：鼻糞よりはいいだろう。鼻ブッガーか。いいんじゃないか？広めなさいよ。

ゼン先生：でも、講演で鼻糞を話題にすることはほとんどありませんよ。

小越先生：経腸栄養の講演の時に経鼻胃管はしんどい、という説明をしているんだろう？その時に鼻糞が溜まっても気になるでしょう？とっているんじゃないか？

ゼン先生：さすがに講演では鼻糞とは言っていない。多分、言っていない・・・言っているかも。自信がありません

小越先生：そうか。しかし、鼻糞が溜まっていると気になる、だから経鼻胃管はしんどい、これは、説明としては悪くないよ、わかりやすいからな。

ゼン先生：しかし・・・。

小越先生：君なら言える。その、鼻糞の代わりに、鼻ブッガーが溜まっていると気になる、だから経鼻胃管がしんどい、というのが理解できるでしょう？と言いなさい。

ゼン先生：ちょっと考えさせてください。

小越先生：まあいいだろう。しかし、オレは、いつか、君が経鼻胃管を説明する講演で、このセリフを言うと確信しているよ。



↑ 千里金蘭大学のオープンキャンパスです。最初に、3号館の9階、大会議室での全体説明会です。新しく副理事長として赴任してこられた平川さんの、熱い、熱い、「ようこそ千里金蘭大学へ！」の挨拶です。かなり気が入った内容だったと思います。千里金蘭大学の売りは「資格取得とAI」だ、と熱く語っておられました。細かい説明はアドミッションセンターの藤崎さん、今年度から担当になり、本当に真剣にがんばっておられます。えんじ色のシャツを着ているのは千里金蘭大学の学生。ブルーのFOOD & NUTRITIONのシャツを着ているのは栄養学部のスタッフです。この9階からの眺めはすばらしい、これも千里金蘭大学の「売り」なんです。



↑ 8階の私の部屋から大学の入口を見ていると、大学のスタッフと学生が待っていて、オープンキャンパスに来られた生徒さんと親御さんに丁寧な説明しておられました。右は、栄養学部の説明会です。今回は藤田先生が、栄養学部の教育内容や将来についての説明をしておられました。

鼻糞じゃなくて、鼻ブッガーだ。

ゼン先生：なんか、私のやることなすこと、先生にはすべてを読まれているんじゃないかと思うんですが。

小越先生：そりゃそうだろう。もう10年以上もこうして二人で会話しているし、君はオレの弟子なんだからな。

ゼン先生：そうですね。弟子だと言ってくれたんですね。うれしいです。ありがとうございます。

小越先生：今回は、この鼻ブッガーの話に終始するのか？

ゼン先生：栄養回診で話題になったというか、話題にしたのが、経口摂取が進まない患者さんに対する SON なんです。

小越先生：SON、世間では ONS だな。

ゼン先生：はい。ONS には、oral nutritional supplementation、oral nutritional supplement の二つの意味がある。Supplement の ONS は製品のことを指す。もう一つの意味合いの時は、栄養管理法としての時には、SPN、SEN と同じように SON、supplemental oral nutrition とするほうがいい、と提案しています。

小越先生：まあ、どうせ、その提案は世の中には受け入れられないけど、いいだろう。その SON がどうしたんだ？

ゼン先生：看護師さんが SON として、エネーボを飲むように患者さんに説明する時、「甘い栄養ドリンクを飲んででもらおうと思うのですが、甘いのは好きですか？」と言うことがよくあるんです。

小越先生：確かに。「甘い栄養ドリンク」と言っているのを何度も聞いたことがある。

ゼン先生：そうすると、「甘いのは好きじゃない」と答える患者さんが結構いるんですね。そうすると、エネーボは出せない、となります。

小越先生：エネーボだけでなく、経腸栄養剤、濃厚流動食、どれも甘いじゃないか。

ゼン先生：そうなんです。そうすると、SON がやりにくくなるんです。なにか、「甘い栄養ドリンク」よりも、もっといい表現はないか、というのが回診中の話題になりました。

小越先生：それは面白い。それで、どうなったんだ？

ゼン先生：薬剤師の大口さんが「飲む点滴」はどうでしょうか、と言いましたね。

小越先生：「飲む点滴」か、悪くないんじゃないか？

ゼン先生：そうなのですが、甘酒が「飲む点滴」と言われています。

小越先生：うううん、聞いたことがある。

ゼン先生：甘酒はおいしいし、栄養価も高いということで「飲む点滴」と説明されています。ただし、ネットでの情報なのですが、「甘い点滴」という表現は、薬機法という法律で違反と判断される可能性が高いんだそうです。

小越先生：へええ、そういう法律があるんだ。

ゼン先生：そのようです。だから、パッケージなどには記載されていないんだとのことです。

小越先生：なるほど。しかし、言うだけならいいんだろう？

ゼン先生：多分。

小越先生：それなら、SON を患者さんに説明する時、「飲む点滴ですよ」と言うのはいいんじゃないか？「点滴は身体にいいもの、元気になるもの」と思っている患者さんが多いだろうから。

ゼン先生：そうですね。実際には、点滴にもいろいろあるし、



↑参加してくれた生徒さん、親御さんと一緒に、本学の学生、教員と一緒にランチを食べる。これも大学の「おもてなし」です。私と一緒に食事することは遠慮しました。こんな「じいさん」は、余計なことではないほうがいいと判断しまして。今回のランチメニューは、ハンバーグか唐揚げか、の選択。生徒さんの感想として「おいしい」がありましたが、御愛想では？私は何度も食べているので、感想はありませんけど。本当、「おもてなし」は大変なんです。是非、千里金蘭大学へ来てください。何度も言わなくてはなりません。



↑毎週、オープンキャンパスの時の栄養学部の「展示物」の写真も出していますが、今回は、大型モニターを使っての「千里金蘭大学栄養学部の紹介動画」が初御目見得。阿形先生が作られた、すばらしい内容の動画です。20分ちょっとの長さです。何回も繰り返し動画が流れるので、バックミュージックが私の頭の中でぐるぐる回るほど見せていただきましたが、残念、生徒さんや親御さんが立ち止まって見る、ということはほとんどなかったように思いました。左の写真のキャラクターは、栄養学部の「エイルー」です。「えいよう学部のカンガル〜」を略して「栄ルー」だそうです。私は、あまり好きではないんですけど・・・これは言うてはいけな



↑今回のキッチンカーは「クレープ」。私が行くと、あまり売れていないとのこと。それじゃあ、と、バナナチョコのクレープ（一番オーソドックスだそうです）を買って、食べました。スプーンで上の部分だけを食べたのですが、全部食べられますよね。紙で巻いている部分をどうやって食べる？悩んでいたところ、看護学部志望の生徒さんと親御さんが歩いていたので、聞きました。巻いている紙を開いてクレープを手でもって食べる、とのこと。知らないんですか？初めて？ということで話が盛り上がりました。オープンキャンパスなので、私の自己紹介が必要。結構、私、栄養の領域では有名なんですよ、スマホで検索してください、なんていう感じになり、生徒さんとツーショット写真を撮りました。SNS かなんかに出ているかも。ということで、オープンキャンパスでも活躍しました。

静脈栄養の本当の意味もほとんどわかっていないでしょうから。

小越先生：点滴の中身はわかっていない医師もいるから。いい意味でだませることになるよ。

ゼン先生：だます？それはないでしょう。

小越先生：いい意味で、と言っただろう？

ゼン先生：それと、もうひとつ、言いたいことがあるんです。

小越先生：なんだ？

ゼン先生：日本中で物価上昇が問題になっていますよね。

小越先生：そうだよ。何でも高くなっているぞ。

ゼン先生：おにぎりもものすごく高くなっています。100円のおにぎりなんてありませんよ。

小越先生：おにぎり、うまいけど、そんなに高くなると、買にくいな。

ゼン先生：そうなんです。だから病院の経営も大変なんです。全体的に大変なんです。特に、栄養について言うと、濃厚流動食、経腸栄養剤は原材料や輸送費などで値上がりしています。輸液ラインや経腸ラインなどのプラスチック製品も値上がりしています。それなのに診療報酬は据え置きです。最も問題なのが食事です。米の値段が爆上がりしていますし、米だけではありません。それなのに、食事療養費は同じです。病院としてはおいしい食事を提供することができるはずがありません。

小越先生：その通りだ。管理栄養士さんは大変だ。

ゼン先生：物価上昇率に連動して診療報酬を上げて欲しい、という要望があります。

小越先生：それは正しいけど、なかなか、実現できないだろうな。

ゼン先生：そうなんですけど。ちょっと話題は違うかもしれませんが、特別食加算についてなんです。

小越先生：特別食加算か。

ゼン先生：追加で算定されるという意味ではいいのかもしれませんが、減塩食が多いんですよ。

小越先生：そうだな。算定できる食事の種類は多いけど、減塩食が一番多いのか？

ゼン先生：その辺りは知らないんですが。減塩食を提供している患者さんが、味が薄いといってなかなか食べる量が増えないことが多いようです。

小越先生：そのために、いろいろ、味付けにも工夫もされているんだろう？

ゼン先生：そうなんですけど。病院の管理栄養士さんの評価に、特別食加算をどれだけ出しているかがあるようです。

小越先生：そうか、それはありうる。

ゼン先生：栄養回診の時、減塩食で味が薄いという患者さんがいたら、普通食にしてあげたらどうか、と私が言うんですけど、管理栄養士さんとしては、すぐには受け入れがたい面があるようです。病院からの評価につながりますから。

小越先生：なるほど。その気持ちもわかる。病院としての管理栄養士の評価につながるんだからな。

ゼン先生：そこで提案なんですけど、特別食加算という診療報酬は止めて、全体としての食事療養費を大幅に上げるなんてことはできないんでしょうか。

小越先生：なるほど。特別食加算の分を、食事療養費自体を上



↑ 何回か前のこのゼン先生の栄養管理講座でも取り上げましたが、池の周りのベンチが「ちゃっちい」。学生達が座りたくなるようなきれいなベンチにしましょうよと提案したら、カラスが来るから、ということで却下されていました。ところが、すばらしいベンチが目覚め、スマホの充電もできるのだそうです。すばらしい！相当、高価なベンチだそうです。私、ここに一人で座って、例のクレープを食べていたのです。



↑ 千里金蘭大学は「吹田くわい」を育てています。といっても、私はよくわかっていません。大学の前の公園で、こうやって育てているのだそうです。鎌田先生がバケツで水を運んでいるとのこと。そもそも、私、この大学に来るまで「くわい」を知りませんでした。くわいでの研究も進んでいます。ものすごくハイレベルの研究を、崎山先生もしておられます。この「吹田くわい」は、植物分類学者の牧野富太郎博士によって、吹田原産という意味の「suitensis」という名前を入れた学名がつけられたのだそうです。由緒ただしき「吹田くわい」なのです。



↑ 5月12日の100円食堂にも参加しました。料理はおいしかった。今回は、19人分のアイスクリームを購入して持参しました。最近はアイスクリームも高くなっていますからね。1個、余分に買って行ったのですが、飛び入り参加の学生がいたので、ちょうどよかったと、担当の徳永先生に褒めていただきました。でも、今回は、学生さん達と話をする機会がほとんどなかったのは残念でした。学生さん達、仲良しとばかり話をしていて、全体として盛り上がったのは、私がプレゼントしたアイスクリームを選ぶ時だったのだそうです。

げるほうに考え方を覚えてもらおう、か。

ゼン先生：不可能なんでしょうか。

小越先生：特別食加算を取りやめるとするのは、すぐに実現するだろうが、その代わりに食事療養費をグーンと上げて欲しい、か。それは難しいと思うよ。

ゼン先生：そうかもしれませんが。でも、このままでは、病院としては食事のレベルを下げるしかないと思うんですが。

小越先生：それは素人考えだと思うよ。しかし、特別食加算のことは別にしても、入院食事療養費は、大幅に上げてもらわないと、病院の経営自体が立ち行かなくなる。その上、患者さんにおいしい食事を出すことができなくなって、栄養状態にも問題が出てくるな。

ゼン先生：そうなんです。食事は大事です。おいしい食事を提供してあげたいんです。しかし、日本全体で物価上昇がこんなにすごいことになっているのですから、それに対応して食事療養費を上げて欲しいと思うのは間違っていないんじゃないでしょうか。

小越先生：間違っていないよ。しかし、全体としての医療費の問題を考える必要があるのは間違いない、全体としてだな。

ゼン先生：その通りなんですけど。国の税金の使い方として、こんなことに金を使うのか？という問題があります。

小越先生：それはそうだけど。

ゼン先生：防衛費を削ってでも、医療にお金を使って欲しいと思うんです。アメリカから何兆円もの爆撃機を購入しようとしているんでしょう？

小越先生：そうらしいな。そういう意味で考えると、それは正しい意見だと思うよ。しかし、世界情勢を見ると、な。

ゼン先生：いくら防衛費をたくさん使って戦闘機なんか力を入れても、中国やロシア、北朝鮮から攻撃されたら、どうしようもないと思うんですけど。

小越先生：オレもそうだと思う。しかし、今回は難しい話になってしまったな。

ゼン先生：はい。医療経済、政治、難しいです。

小越先生：でも、実現はできないかもしれないけど、食事療養費を上げて、もっと患者さんにおいしい食事を提供できるようにして欲しいという、君の気持ちはよくわかったし、賛成してくれる人が多いと思うよ。

臨床栄養に携わる管理栄養士の輪を広げよう！
令和7年度 第一回

千里金蘭大学 臨床栄養勉強会

2023年度から千里金蘭大学では、井上晋文教授を中心に臨床栄養に意を寄った教育に力を入れています。食事・経口栄養だけでなく、静脈栄養も理解した管理栄養士の育成です。この考え方を千里金蘭大学の卒業生に広げたいと考えてこの勉強会を開催することにしました。そして、その輪を臨床栄養に興味があるすべての方達に広げることができれば、病院における栄養管理を創出することができるのではないかと思います。初歩中の初歩からでも構いませんが、ざっくりといろんな話をしながら、一緒に勉強しましょう。

参加費 無料

6月14日(土)
14:00・17:00
受付 13:30

会場 千里金蘭大学 3号館9F大会議室
大阪府吹田市藤白台5丁目2-5-1
近鉄北千里からバスで10分、または徒歩15分
参加対象者：千里金蘭大学卒業生及び臨床栄養に携わる方
募集人数：100名(募集定員になり次第、締め切ります)

- 講演Ⅰ「漢字「栄養」のルーツをたどる」
千里金蘭大学 教授 井上晋文
- 講演Ⅱ「管理栄養士病院常駐10年の学び～多職種の一員として臨床栄養を活かす第一歩～」
西宮協立脳神経外科病院 花岡麻里子さん
- 最新情報：静脈栄養・経腸栄養の関連商品の紹介：ニプロ株式会社
流動食など関連商品の紹介：森永乳業 クリニコ株式会社
- 特別講演「静脈栄養・経腸栄養を駆使した栄養管理」
千里金蘭大学 教授 井上晋文
- 懇親会 スィーツを食べながら交流しましょう！

お申込み・お問合せ
千里金蘭大学栄養学部栄養科 | 町橋留美、渡辺陽菜

↑6月14日に、千里金蘭大学で「臨床栄養勉強会」を開催することにしました。栄養学部として、外へアピールできるイベントをしようと、渡辺先生と石橋先生が企画し、私ががんばって講演することになりました。一つの目的は千里金蘭大学の卒業生の、病院で働く管理栄養士の輪を広げよう、なのです。卒業生同志が集まって、いろいろ勉強ができればいいと思ってのことです。今回の勉強会では、私が主として講演します。第1期生の花岡さんも講演してくれます。参加費は無料にしました。「無料だから井上先生の講演を聞きに行きます」というメールも何通か来ました。「タダだから・・・」まあ、いいんですが、私は本気で講演しますので、そこらへんも考えて欲しい、かな？最初は50人ほど集まってくれたらいい、と思っていたのですが、すでに100人以上の応募があるようです。うれしい悲鳴です。

【今回のまとめ】

1. 管理栄養士国家試験に物申すのは止めました。残念ながら、無駄な動きだったのではないかと思います。大きな動きになって欲しかったけど。
2. 米騒動は日本全体としての問題になっています。小泉さんが新しい動きを進めています。これがきっかけとなっていい方向に動いて欲しいですね。
3. 経鼻胃管が留置されているのはしんどい。「鼻糞」が溜まっているだけで気になるでしょう？という説明ですが、「鼻糞」の代わりに「鼻ブウガー」だと、ちょっとはきれいな表現になる？
4. 経腸栄養剤・濃厚流動食を患者さんに説明する時、「甘い栄養ドリンク」と説明しているのではありませんか？「甘いのは嫌い」という返事が多いので対策を練る必要があると思います。「飲む点滴」はどうでしょうか。いいアイデアがあれば教えてください。
5. 物価高に対応するため、入院食事療養費をグーーンと上げて欲しい。患者さんにおいしい食事を出せるように、そう思っているのですが、無理かなあ。